

創刊110周年記念

# 誇れるふるさと

## 24地区リレー

〈vol.14〉

〈原① 特徴〉

原地区は、宇部市の中心市街地から西へ約2キロに位置する。1972（昭和47）年に市内第1号の市無形民俗文化財に指定された「百手祭（ももてさい）」が、岡田屋に伝わることで知られている。

### 海拔0メートル、風水害に備え訓練



今年の百手祭で、力強く弓を射る若者たち（3月27日撮影）

### 盛んな製塩業から炭鉱へ

かつて、地区と周辺は広大な干潟で、江戸時代後期に干拓事業が行われ、妻崎開作や新開作などに広大な田地ができた。藩の産業振興対策・四百作戦（米、塩、紙、ろう）の実施で、小規模ながら製塩業が盛んだった。「浜」が付く浜郷、浜崎の地名は、塩田があった名残という。明治以降は中小炭鉱が



原

#### 基本データ

- 面積7.94平方キロメートル（9位）
- 世帯数3703世帯

- 人口7242人（12位）  
（男性3487人、女性3755人）
- 高齢化率35.0%
- 小学校児童数289人
- ※世帯数などは2022年4月1日現在

数多く創業。中原炭鉱や第2雀田炭鉱から掘り出した石炭を宇部港に運ぶ施設があり、閉山までに終わった。

現在、地区内には宇部

湾岸道路や国道190号が通っている一方で、車の通行が困難な道路も多々ある。鉄道はJR小野田線が地区を横断し、妻崎駅と長門長沢駅がある。住宅、田畑、工業地域が混在している。

海抜0メートルの地域があり、風水害や地震による被害が懸念されている。日頃から研修や訓練を通して、地区の防災力を高めている。買い物をする店や病院が少なく、車で移動できない住民は不便なため、地域内交通の利便性向上や移動販売車の利用促進に取り組んでいる。コミュニティ大運動会、夏まつり、ふれあいまつりなどが、地域住民の親睦の機会になっている。

岡田屋の伝統行事「百手祭」は、1468（応仁2）年に地域で流行した疫病を鎮めるため、的射を奉納したのが始まりと伝えられている。以後毎年、地域住民が伝承し、今年3月には554回目が行われた。

地区コミュニティ推進協議会の金重和義会長は「隣接する山陽小野田市、黒石地区と昔からつながりが深い。高齢化は着実に進んでおり、高齢者福祉の充実、ご近所同士の間係づくりが望まれる」と話す。